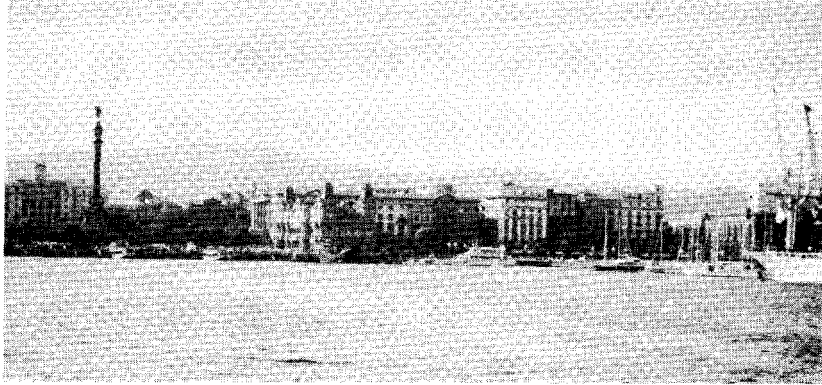
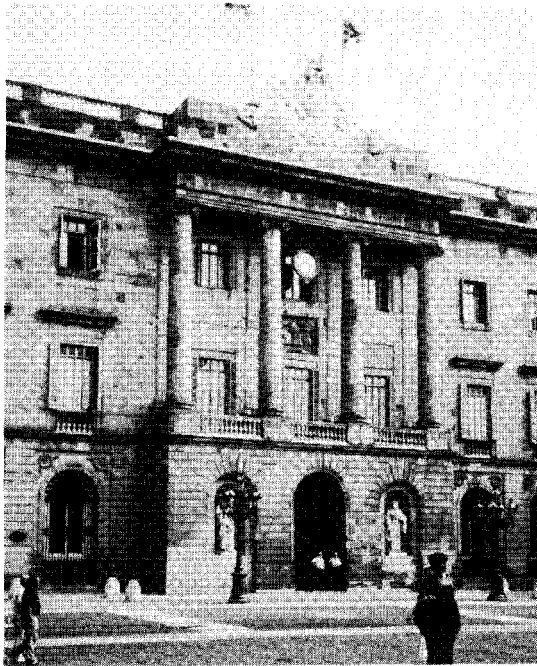


No. 1



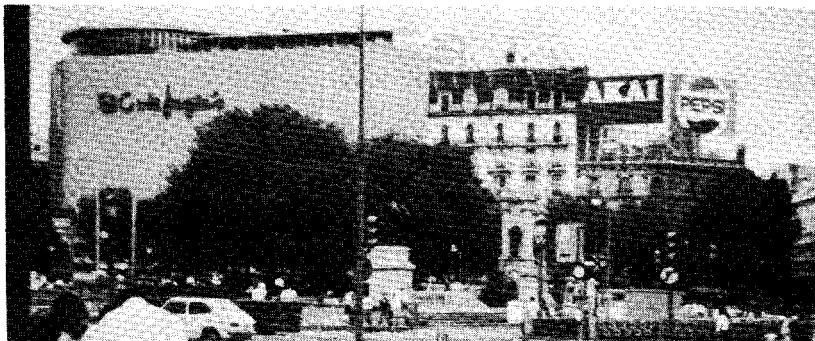
No. 2



No. 4



No. 3



バルセロナ市の都市構造

栗原 尚子

地中海貿易の中心都市として発展してきたバルセロナ市は、18世紀後半以降の繊維工業を主軸とした工業化の発展に伴い、近代工業都市として再生した。それにともない都市内部の空間構造も再編された。まず急速な都市空間の膨張は1841年の城壁の取り壊しに始まったが、その外側に新たに勃興した社会階層の住宅地域としてセルダの都市計画に基づいた都市空間ensancheを創出した。1950年代までの都市域はほぼこの領域に限られていたが、1960年代のスペインの高度経済成長を支えた重化学工業化に伴い、国内各地とくにアンダルシア地域から流出した多くの労働力人口を受け入れ、その住宅地域がensancheの外延部に拡大した。バルセロナ市の現在人口は175万人であるが、大都市圏人口は300万人を越えている。近年、バルセロナ市の人口が減少傾向にあるのに対して、周辺地域の人口増加はめざましく、住宅地域として急速に再編されている。

No.1の写真は、湾上からバルセロナ市を臨んだもので、スペイン第一の港湾都市としての機能を備え、さらに長年の念願であったEC加盟後、その重要性を増している。左側にそびえるモニュメントはコロンブス像で、はるかラテン・アメリカを指差している。ラテン・アメリカ発見後500年の1992年、オリンピック誘致に成功し、町中は沸き返った。

No.2の写真はバルセロナ市庁で、スペイン国旗、カタルーニア旗、市旗が翻える。カタルーニア旗の掲揚はフランコ時代には禁止されていたが、1975年の民主主義に基づく政治体制の変革に伴い、地方自治を求める地域主義の昂揚は、この地を席卷しカタルニア文化の復権運動が進んでいる。官公庁はかつての城壁内部の旧カスコcasco antiguoにあるが、この旧カスコ内の再開発が他の地中海諸都市と同様に問題となっている。歴史的遺産を数多く遺し、その歴史的景観を損なうことなく再開発することは容易ではない。また、この地域の老朽化した住宅は低所得階層の居住地としての役割をも担っているが、再開発は私権の制限という問題にとどまらず、結果としてそのような社会階層をふるいにかけることにつながり、問題とされる場所である。旧カスコ内の住民は他地域とくにアンダルシアからの移住者が多く、バルセロナ市がカタルーニア出身者の社会であるのと対照をなしている。

No.3は旧カスコに隣接する現在の商業中心地区で、プラーサの周囲には銀行、デパートなどの高層ビルがならぶ。奥のコルテ・イングレスはスペインの代表的なアパートで、私のようなデパート大好き人間にとってはバルセロナでの生活の核のひとつであった。ともかくなんでもここで間に合い、スーパー形式の食料品売り場、クリーニング、国際電話も可能な電話コーナーとよく利用させてもらった。とくに夜の8時まで開いているのはありがたい。さらに真夏のデパート最大の効用は冷房である。耐え難い2時から4時くらいの暑さ凌ぎによく飛び込んだものである。

No.4は19世紀後半以降のensancheの都市景観の一端を示すもの。碁盤目条に道路が整備され、高層の建築が立ち並び、現在では管理中枢機能、商業機能を担う地域となっている。旧カスコ、ensancheにバルセロナ市の主要な経済機能が集積し、最大の雇用を吸収する空間となっている。